



八総務第132004号
令和3年1月20日

八幡平市議会議長 工藤 剛 様

八幡平市長 田 村 正 彦



令和2年度八幡平市議会報告会「議員と語る会」で寄せられた要望・提言等に
に係る市の対応方針について (回答)

令和2年12月28日付け八議事第122801号で通知のありました標記について、次の
とおり回答します。

記

(1) 大更コミュニティセンター (令和2年11月7日・2班)

① 田頭中村地区の大更八幡平線と中田野駄森線の十字路交差点で交通事故(死亡
事故も発生)が多発している。車両、歩行者の安全対策のために、信号機等の早
期設置を望む。岩手警察署へ積極的に要望してほしい。

【回答】

信号機設置につきましては、岩手県公安委員会へ要望しておりますが、今後も
継続して要望してまいります。

【回答担当課：建設課】

② 平館大更線(旧国道282号)と市道鉦山線(愛宕山麓)のT字路カーブを拡幅し
安全を確保してほしい。

【回答】

市道鉦山線の丁字路交差点につきましては、平成12年度に一般国道282号雪国
生活支援道路整備事業により、岩手県公安委員会などの関係機関と協議し、岩手
県が一部交差点改良を行っております。

今後は、八幡平市道路整備計画に位置付け、改良等整備を検討してまいります。

【回答担当課：建設課】

③ 大更駅自由通路は、市立病院までの往来経路、エレベーターの設置場所がわか
りにくい。案内板等を設置し、利用しやすい環境にしてほしい。また、大更駅前
から市立病院への道路案内看板が必要である。



【回答】

大更駅自由通路につきましては、案内表示等により利用しやすい環境整備に努めてまいります。

また、大更駅前から市立病院への案内看板の設置につきましては、現在整備を進めております大更駅周辺整備事業において、案内看板の設置を検討してまいります。

【回答担当課：建設課】

(2) 荒屋コミュニティセンター（令和2年11月7日・3班）

- ① 漆器文化を守るために木地師の養成が急務である。市で木地師を養成してほしい。

【回答】

木地師は、江戸時代から平成の初めまで、安代地区の主に畑地域で行われてきた漆器の器を作る生業であり、かつては、県の卓越技能者を輩出し、その道具類等は県指定文化財として市博物館に収蔵展示されています。

ご質問の八幡平市で木地師を養成することは困難であると考えられます。漆器に使用する木地製作技術の習得には、3年から5年程度の修業が必要なことや、高額な設備投資を要するほか、丸太から木地製品になるまで2年程度の乾燥期間が必要です。また、研修は、刃物製作に必要な鍛冶技術、木材乾燥、轆轤技術等の習得が必要であり、現在、市内及び県内には轆轤技術指導を行っているところはありません。国内では唯一、石川県山中町に「石川県挽物轆轤技術研修所」があり、「木を挽く技術」を指導しています。

現在は轆轤の性能が向上しておりますが、生業として成り立つには、木地師1人に対して15人程度の塗師職人からの注文が必要だといわれています。

市内で漆器製造に関わっている職人は、洋野町、花巻市、石川県山中町などに木地を発注し、そこから安定した供給が受けられています。

昨年、本市と二戸市と共同で「奥南部漆物語」として、漆文化が日本遺産に認定されました。漆に関する伝統工芸の保存伝承については、両市共通の課題ですので、今後協議してまいります。

【回答担当課：地域振興課】

- ② ハロウスクールの開校に伴う、地元雇用、特に若者雇用について事業者に要請してほしい。

【回答】

ハロウスクール安比校につきましては、報道されているとおり令和4年8月の開校に向け施設整備に取りかかっているとのことであります。

さて、同校の運営形態の内容につきましては、市及び県に具体的な情報がまだ示されていない状況でございます。

従いまして、職種を始めとしてどのような能力・技能を持ち合わせている方を

求職するものか全く把握できていない状況ではありますが、地元雇用に向けましては、県との連携の下、機会を捉えて要望してまいりたいと考えているところでございます。

【回答担当課：商工観光課】

- ③ 八幡平市立病院内に飲食店又は軽食が提供できる休憩室を設置してほしい。
(安代行きのバス発車時間が遅くて昼食を取りたい。)

【回答】

病院内のスペースには限りがあるため、飲食店又は軽食が提供できる休憩室の設置はできませんが、病院内に売店が開設されていますので、軽食等を購入し、他の来院者等の迷惑とならないような形で飲食を行うことは可能となっています。

【回答担当課：市立病院】

- (3) 平舘コミュニティセンター (令和2年11月14日・1班)

- ① 国道282号線にある市立病院への案内看板を大きく目立つようにしてほしい。

【回答】

国道282号線にある案内看板については、道路管理者である岩手県盛岡広域振興局土木部岩手土木センターが設置したものであり、当該看板だけを大きく目立つように設置し直すことは難しいものと伺っています。

市立病院へ向かう国道からの入り口付近に、病院が独自に案内看板を新設する方法も考えられますが、同じ機能を持つ看板を二重に設置することにもなり、また、設置費や土地代、設置後における照明等の維持管理費に伴う費用を考慮すれば、現時点では新設する予定はありません。既に案内看板が設置されており、移転前と比べて来院者数が増えていることから、時間の経過とともに市民の方々から認識していただけるものと考えています。

【回答担当課：市立病院】

- ② 防災無線の難視聴地域解消のため、希望者に受信機(防災ラジオ)を導入してはどうか。

【回答】

防災行政無線の難聴地域につきましては、市民の方から情報提供があった地域について令和2年度に調査し、音量の調整やスピーカーの方向調整等、今後の対応について検討しているところでございます。

防災行政無線の放送内容につきましては、現在、電話応答システムでの音声再生で確認できるようになっております。また、緊急時の避難情報等については、いわてモバイルメールでメールのほか、エリアメール、防災速報アプリ等で情報配信されるようにしておりますが、今後、更に情報配信手段の多重化を図るにあたっては、防災ラジオをはじめ、それぞれの特徴を把握しながらコストや利用しやすさ等様々な角度から検討してまいります。

【回答担当課：防災安全課】

- ③ 国の経営持続化補助金（農業）1・2次募集に漏れた人たちに対策が欲しい。

【回答】

経営継続補助金につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響を克服するため、感染拡大防止対策を行いつつ、販路の回復・開拓、生産・販売方式の確立・転換などの経営継続に向けた農林業者の取り組みの支援を目的に、国の令和2年度第2次補正予算において措置されたものです。今までに6月下旬からの1次募集と10月中旬からの2次募集の計2回募集の受付がされております。申請状況について農林水産省東北農政局岩手県拠点から伺ったところ、全国的な状況として、申請のあったもののうち2割程度が不採択となっており、その理由としては補助対象外経費の計上または補助対象経費のうち「接触機会を減らす生産・販売への転換」若しくは「感染時の業務継続体制の構築」に係る経費が6分の1に満たないことが挙げられるとのことでした。

従いまして、申請事業が新型コロナウイルス感染症の克服とは関連性がないなど、補助要件に合致しないとの理由から国の経営継続補助金が採択とならなかったものについては、市で新たな対策を講じることは予定しておりませんので、ご理解願います。なお、経営継続補助金の募集期間に間に合わずに申請を断念されている方は、国の令和2年度第3次補正予算が閣議決定されており、予算成立の後に再度募集がされることが予想されます。

【回答担当課：農林課】

- (4) 松尾コミュニティセンター（令和2年11月14日・2班）

- ① 安比・八幡平が令和2年度の国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業支援対象地域に指定された。市の対応・支援等をどのように考えているか。

【回答】

国際競争力の高いスノーリゾート形成促進事業につきましては、観光庁が採択エリアの事業に対し、2分の1を補助する事業で、令和2年度に「Tohoku Mountain Frontier APPI Hachimantai」として認定を受けたものです。具体事業といたしましては、安比高原スキー場で降雪機の導入、看板整備、キャッシュレス導入、トイレ洋式化などを実施し、リゾートスキー場は看板を整備し、両スキー場にバックカントリー事業を行う大黒森管理協同組合を加えての安全管理対策を構築するとともに、ロッジクラブマンによる電動自転車 E-Bike による体験商品造成となります。これらの事業を株式会社八幡平DMOが総括するとともに、各スキー場の情報発信事業には市からも補助金を支出し支援をしているところであります。

この事業は、冬期のみならず通年での観光商品の造成などに活用できますので、これまで開催した八幡平市観光協議会においても、市内各事業者の皆さまに活用を検討を促しているところであります。

この事業については、基本的には各事業者が事業費を負担し国から2分の1補

助を受けるしくみですが、それらの事業実施に伴う情報発信やエリア全体に関わる事業展開においては八幡平DMOや一般社団法人八幡平市観光協会のとりまとめによる事業展開により、市からの支援なども検討していく予定でございます。

【回答担当課：商工観光課】

- ② 令和4年8月、開校予定でハロウスクール安比の建設工事が進んでいる。学校では、日本文化を学び市民や小中高生との交流、奉仕活動を望んでいる。市の支援のあり方はどうか。

【回答】

ハロウスクール安比校の開校は、市の国際交流や多文化共生を推進する上で、重要な機会であると認識しております。

具体的な交流の内容等につきましては、今後、ハロウスクール側と協議を重ねながら詰めていく必要があるものと捉えており、開校に合わせ同校と連携協定的なものの締結が可能かどうか模索し、その中で市民の交流事業などを実施するための支援についても検討してまいりたいと考えております。

また、ハロウスクールの生徒との交流は、国際理解を深めるうえで、本市の小・中学校の児童生徒にとって大変貴重な機会であり、加えて、児童生徒の英語力向上を図る絶好の機会であると捉えております。

そのために、令和3年度から教育研究所において、英語教育重点部会を立ち上げ、教職員の外国語活動・外国語及び英語科の指導力向上と、ハロウスクールとの国際交流の在り方について実践研究を行い、ハロウスクールとの交流に向けて準備を進めていく予定としております。

【回答担当課：地域振興課・教育指導課】

- ③ 旧松尾村には、景観条例があった。今後、電柱の地中化を進めるとともに、看板の乱立などを見直し景観に配慮してほしい。

【回答】

現在、市域における景観の保全につきましては、岩手県の景観の保全と創造に関する条例と松尾村ふるさと景観条例（暫定条例）に基づく行為の届出により、景観の維持保全に配慮いただいております。

次に、市道における電柱の地中化は、現在、計画している路線はございませんが、今後、景観・防災対策として必要となりましたら検討してまいります。

また、看板の景観への配慮につきましては、行政で設置したもの、民間事業者が設置したものなどがありますので、今後改修や撤去が可能な看板について、対策を検討してまいります。

【回答担当課：建設課・商工観光課】

【お問い合わせ先】
総務課 及川隆二
内線 1231